

尾道系崎港尾道地区ウォーターフロントあり方検討会（第4回） の開催結果について

1 要旨・目的

尾道系崎港尾道地区においては、平成26年の県営2号上屋への商業施設の開業以降の更なる賑わい創出を図るため、尾道系崎港尾道地区ウォーターフロントあり方検討会（以下「検討会」という。）を開催し、令和2年に、臨海部における賑わい創出の方向性や空間利用について、とりまとめを行っている。

令和2年以降、クルーズ客船の誘致等、更なる賑わいの創出に向け取り組んできたところであるが、尾道地区のウォーターフロントを取り巻く情勢も変化していることから、今後のあり方を検討するため、検討会を再開し、このたび、第4回検討会を開催したので、開催結果及びとりまとめ内容を報告する。

2 検討会の概要

（1）日 時 令和8年7月21日（火） 13:00～14:20

（2）場 所 尾道市役所 2F 会議室（尾道市久保一丁目15-1）

（3）構成員 構成員名簿のとおり

（4）議 事

ア 尾道系崎港尾道地区の現況について

イ 賑わい創出に向けた方向性や空間利用について

ウ 意見交換・取りまとめ

（5）出席者からの主な意見等

- ・3号上屋を取り壊さず利活用するという県からの提案について了承された。
- ・神戸港では、令和9年春にスーパーヨット専用マリーナがオープン、神戸空港では、令和12年を目途に国際定期便が就航する予定であることから、神戸と連携してスーパーヨットを誘致したらどうか。
- ・外国籍のスーパーヨットを誘致した場合、税関手続きや出入国審査、検疫の対応が必要になる場合があるため、臨時的対応ができる場所を確保したらどうか。
- ・3号上屋の具体的な利活用方針について、スーパーヨット利用者のみならず、市民なども利用できるような施設になれば良いと考えている。
- ・3号上屋のみだけではなく、西御所地区全体の賑わいが創出できるよう検討していただきたい。
- ・3号上屋が倉庫利用できなくなることから、ほかの場所に上屋を確保していただきたい。

3 尾道地区臨海部における賑わい創出の方向性・空間利用について

尾道地区の更なる賑わいの創出を図るため、引き続き「多様な水際空間」「新たな集客空間」「円滑な交通空間」「良好な景観・まちづくりの空間」の視点による空間形成に取り組むこととし、別紙のとおり、とりまとめた。

4 今後の予定

方向性や空間利用についてとりまとめられたことから、今後、既存の3号上屋を活用した賑わい空間の形成やクルーズ機能の充実・強化（スーパーヨット、観光クルーズ、テnderボート(外航クルーズ船)等）などの取組について、尾道市と連携し関係者との合意形成を図りつつ、賑わい創出に取り組んでいく。

尾道糸崎港尾道地区ウォーターフロントあり方検討会（第4回） 構成員名簿

（順不同）

	氏名	所属・役職
委員長	いもと しん 井本 伸	尾道市立大学教授
委員	こうもと のぶゆき 河本 信行	中国地方港運協会尾三支部長
委員	かわもと きみお 川本 公夫	尾道地区旅客船協会会長
委員	はしむら ひでき 橋村 秀樹	（一社）日本旅行業協会中四国事務局長
委員	ふくい ひろむ 福井 弘	尾道商工会議所会頭
委員	みやけ ひろし 三宅 宏	（一社）尾道観光協会会長
委員	あかぎ なおひろ 赤城 尚宏	中国地方整備局広島港湾・空港整備事務所長
委員	にいむら たかし 新村 貴史	広島県土木建築局空港港湾担当部長
委員	みしま ふみお 三島 史雄	広島県地域政策局地域振興担当部長
委員	ひらたに ゆうこう 平谷 祐宏	尾道市長
オブザーバー	さとう ともゆき 佐藤 智幸	中国海運株式会社 代表取締役社長

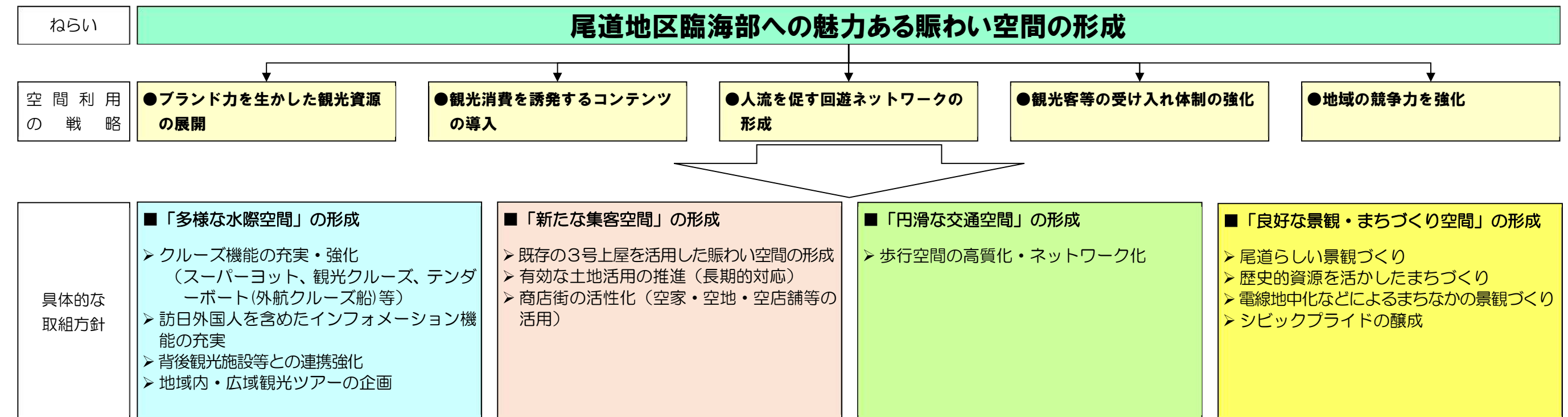
尾道地区臨海部における賑わい創出の方向性・空間利用

観光特性と展開すべき戦略

尾道地区の観光特性を分析すると、以下のとおり整理される。この分析結果に基づき、今後、尾道地区臨海部で展開すべき戦略の方向性を、以下のとおり設定する。

尾道地区の観光特性と臨海部で展開すべき戦略の方向性

強 み		弱 み
○しまなみ・尾道のブランド力 ○地域のシンボリックな景観形成とその保全 ○前面海域に位置する多島美 ○世界に誇れる観光資源 ○本土と周辺島しょ部を結ぶ海上交通網、中四国を縦断する道路網 ○数多くの映画やドラマのロケ地		○1人当たり観光消費額の伸び悩み ○観光施設間の移動手段不足 ○観光シーズンにおける交通渋滞の発生 ○駐車場不足、宿泊施設不足 ○待合、休憩施設不足 ○港湾施設の利用転換、老朽化
機 会	積極的攻勢	弱点強化
○観光客需要、インバウンド需要の高まり ○サイクリングブーム、世界大会開催 ○尾道水道、芸予諸島の日本遺産認定 ○個人ツアー、民泊需要の高まり ○クルーズ需要の高まり、客船「ガンツウ」(母港：尾道)就航 ○スーパーヨット需要の高まり ○JＲ尾道駅のリニューアル ○臨海部賑わい空間のJＲ尾道駅西側への展開(U2、プロムナード等)	◎日本遺産認定やナショナルサイクルートの指定や「クルーズ船」の就航などによる観光需要の高まりを契機とし、尾道のブランド力を生かした新たな観光資源の展開	◎観光需要の高まりを契機とし、観光消費を誘発するコンテンツの導入 ◎賑わい空間の広がりに対応する、人流を促す回遊ネットワークの形成 ◎既存の港湾施設を活用した、観光客等の受け入れ体制の強化
脅威	差別化戦略	問題回避
○地域・都市間競争の激化 ○瀬戸内沿岸各地域における各種観光政策の展開	◎尾道の景観など地域の強みを活かした賑わいの形成により、地域の競争力を強化	—



尾道地区臨海部における賑わい創出の方向性・空間利用(今後の取り組み)

尾道地区臨海部における賑わいづくりに向けた現在の取り組みを踏まえ、今後の更なる賑わいの創出に向け、以下に示すプロジェクトを積極的に進める。

